

農業版BCPハンドブック作成、貯水タンク等の導入。 ソフトとハードの両面から防災減災に取り組む

JALしべちゃ(標茶町)



搾乳農家用



肉用牛農家用

◇【取組の経緯と概要】

- ◆ 北海道胆振東部地震が発生し、農作物や農地・農業用施設等に大きな被害が生じたほか、北海道全域に及んだ大規模停電(ブラックアウト)による影響を踏まえ、停電対策として各牧場に発電機の配備を進めてきたが、さらに水の確保対策として貯水タンク等の整備が必要ことから検討を始めた。
 - ◆ JA及び町として、水の確保対策に係るモデル事業(貯水タンク等導入支援)を開始。
 - ◆ 北海道農政事務所釧路地域拠点独自の農業版BCPハンドブック作成(普及拡大用)を機にJA、町、釧路地域拠点、生産者が協力・連携し、農業版BCPハンドブック(JALしべちゃモデル)を作成することとした。農業版BCPハンドブック(JALしべちゃモデル)作成プロジェクト設置、プロジェクト担当者会議(JA、町、釧路地域拠点)、プロジェクト生産者協議(生産者、JA、町、釧路地域拠点)、JA理事会、JA専門委員会を開催し、ハンドブックの作成及び防災体制の整備に向けた協議を行った。
 - ◆ 防災備蓄品の斡旋
 - ◆ 250戸の畜産農家の農業版BCPハンドブックを作成
 - ◆ JALしべちゃBCP見直し及びJA災害対応マニュアル作成
 - ◆ JAコネクト(※)の普及及び防災情報伝達用ホームページの開設
 - ◆ この取組により、関係機関との連携、防災に対する意識の高揚、農業版BCPハンドブック作成による事業継続への取組、JAの防災に係る充実強化を図る。
- ※JAコネクトはJAの組合員が今までFAXで受け取っていた営農情報をスマホやタブレットで受け取れる無料アプリです。

【取り組む際に生じた課題と対応方法】

- 250戸分の各畜産農家の実情に合わせた農業版BCPハンドブックの作成が大変であった。
⇒プロジェクトでハンドブックの見本を作成し、個々の情報については、営農計画提出時の際にヒアリングシートを基に聞き取りを行い、個々のハンドブックに反映し完成させた。

【組織等の概要】

- 組織名：J A しべちゃ
- 代表理事組合長：鈴木 重光
- 所在地：川上郡標茶町開運9丁目6番地
- 組合員数 1,330名
- (正組合員数 302名、准組合員数 1,028名)
- ハンドブックの作成 250戸(畜産農家)

【取組の成果】

- リスクに対する備えについて、防災備蓄品の斡旋なども行い、改めて再認識することができ、JAと組合員で共通認識と情報共有が図れた。
- ハンドブックを通じて、災害対応のイメージができ、家族や従業員で災害時の役割や緊急時の体制などを話し合うことができた。
- 災害時の水の確保対策における貯水タンク等の導入支援として、JAと町の両方で補助事業を創設できた。
- 情報伝達手段として、JAコネクトの普及及び防災情報伝達用ホームページを開設できた。
- ハンドブックによる農業版BCPの作成、災害時の情報伝達方法や機械等の操作マニュアル作成などのソフト面と貯水タンク等の導入によるハード面を同時に進めることにより、防災体制整備の充実強化に向けて一体的に取り組むことができた。



完成報告会でハンドブックを手にプロジェクト全員で撮影

【今後の展望】

- 水の確保対策に係る補助事業(貯水タンク等導入支援)の開始
- JALしべちゃBCP見直し及びJA災害対応マニュアルを作成する。
- 年に1回はハンドブック見直しの検討をする。
- 発電機や貯水タンク等の動作確認を定期的に行う。
- 防災情報の充実化を図る。
- 畑作農家用のハンドブックの作成を検討する。